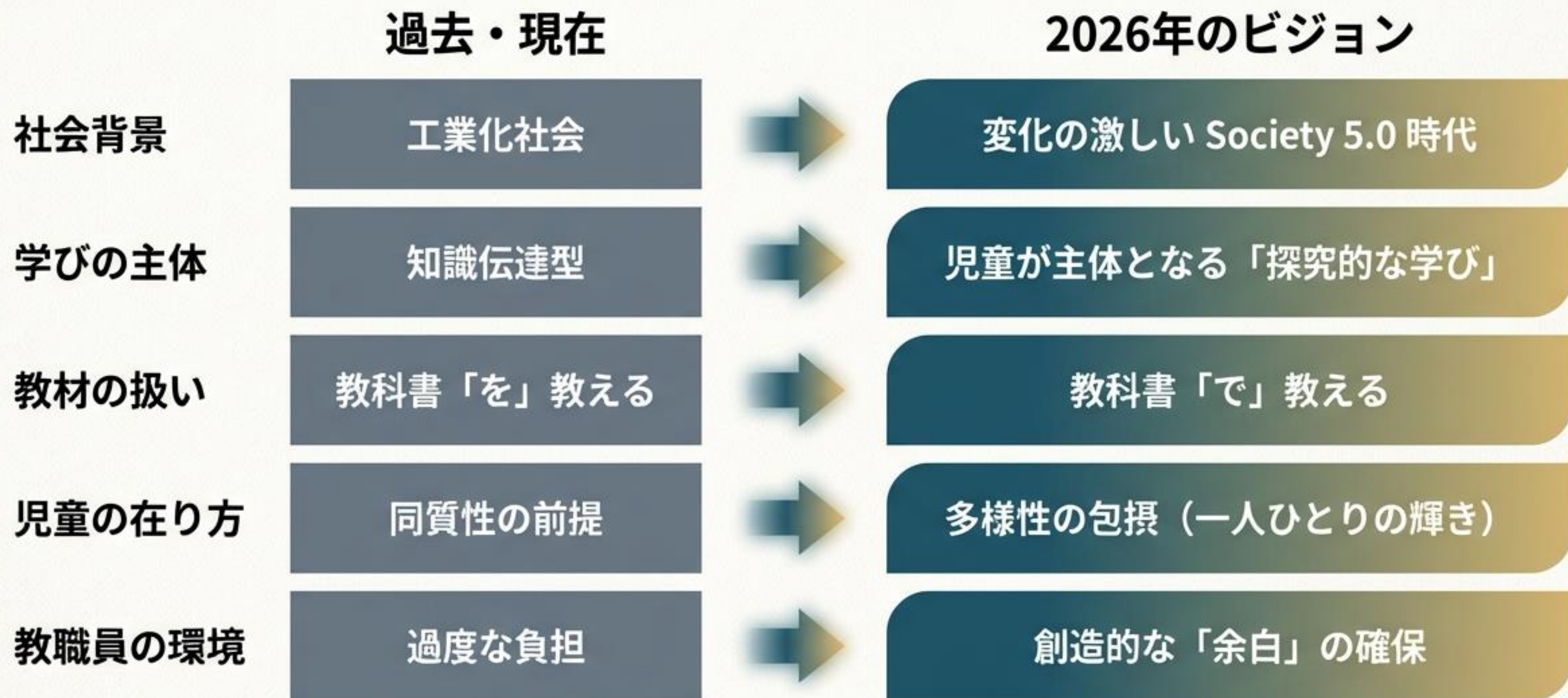




令和8年度（2026年） 学校運営の基本方針

一人ひとりが輝き、共に未来をつくる
— 未来に向けた教育戦略ロードマップ

なぜ今、教育パラダイムの転換が必要なのか？



国の指針：次期学習指導要領を支える「3つの柱」

質の高い学びの実現

Excellence

主体的・対話的で
深い学び

- 生きて働く「確かな知識」の習得
- 探究的な学びの基盤となる「情報活用能力」の抜本的向上

Equity

多様性の包摂

- 多様な背景を持つ子供の可能性を開花
- 裁量的な時間を生む「調整授業時数制度」と個別のニーズに応じた「特別の教育課程」

Feasibility

実現可能性の確保

- 過度な負担を軽減し、教師と子供の双方に「余白」を創出
- 教科書の精選・重点化と、学習改善に活かす評価への転換

川崎市の指針：「第3次教育プラン」が照らす灯台

めざすもの：「一人ひとりが輝き、共に未来をつくる」

個人と社会の幸せが循環する姿。自らの人生の主人公となり、他者と協働して未来を創る。

みんなと共有したい3つの価値観

「一歩、踏み出す」

失敗を恐れず、つまずきも学びに変えて挑戦する。

「自分の幸せ みんなの豊かさ」

自分らしさを大切にし、共に学び合う喜びでより良い社会へ。

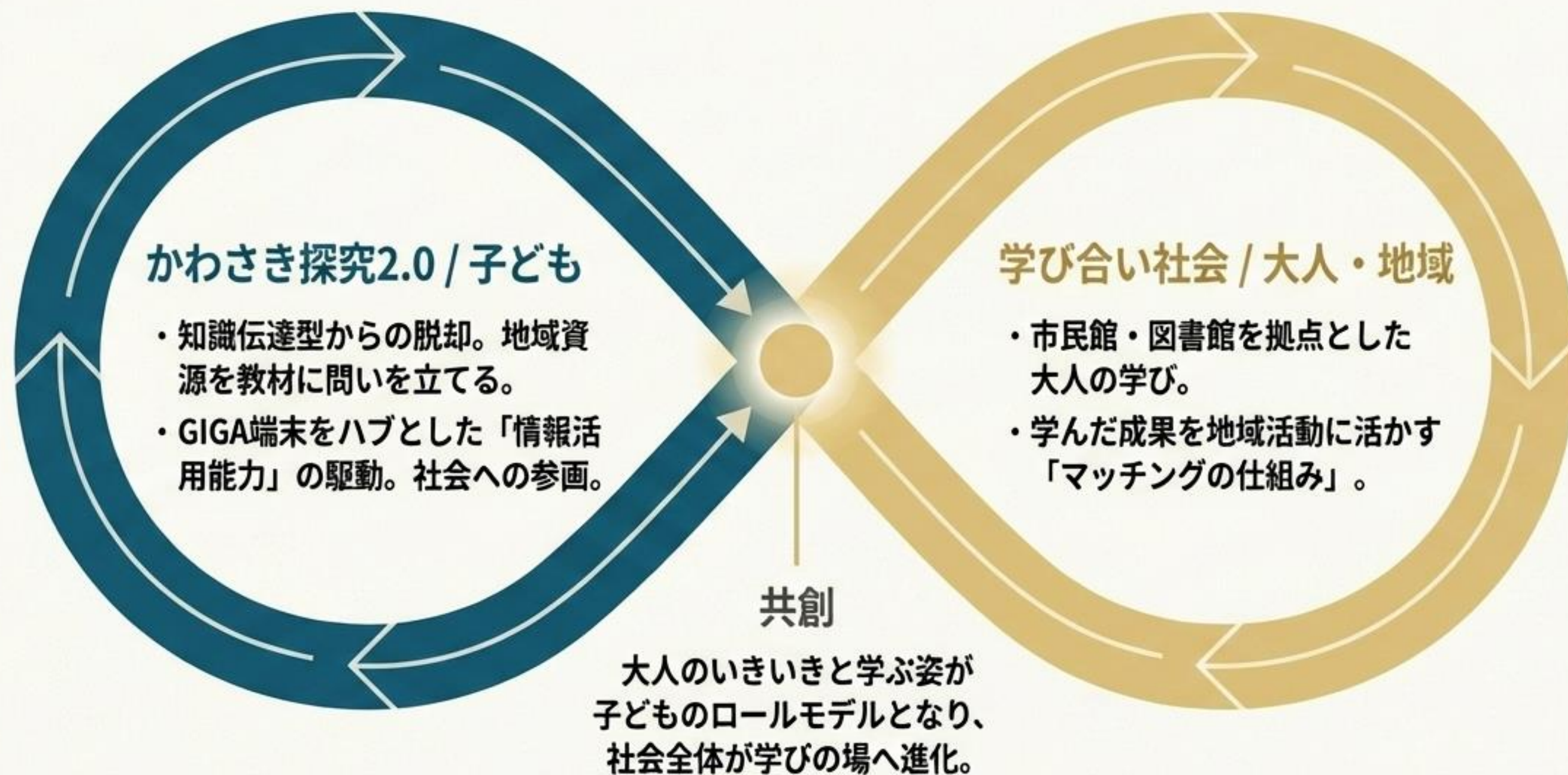
「多様性を可能性へ」

違いを歓迎し、異なる背景を持つ他者と新しい価値を生み出す。

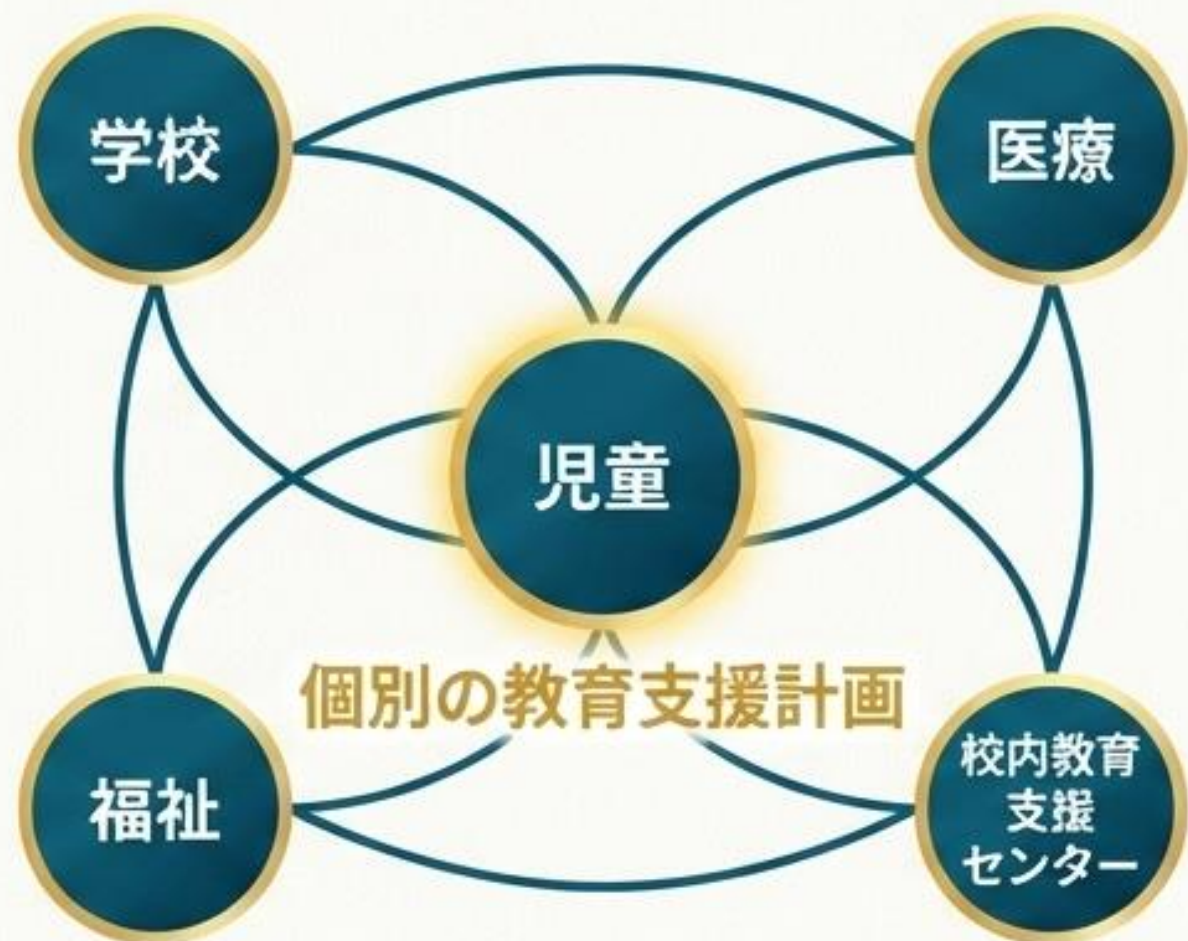
統合マトリクス：国の方針を具現化する「4つのKey Project」



学びの拡張：子どもと大人が地域で循環するエコシステム



支援と環境の再構築：切れ目のない連携と教職員のウェルビーイング



【Project 2】組織の枠を越えるネットワーク。多様な学びの場と居場所を確保し、誰一人取り残さない。

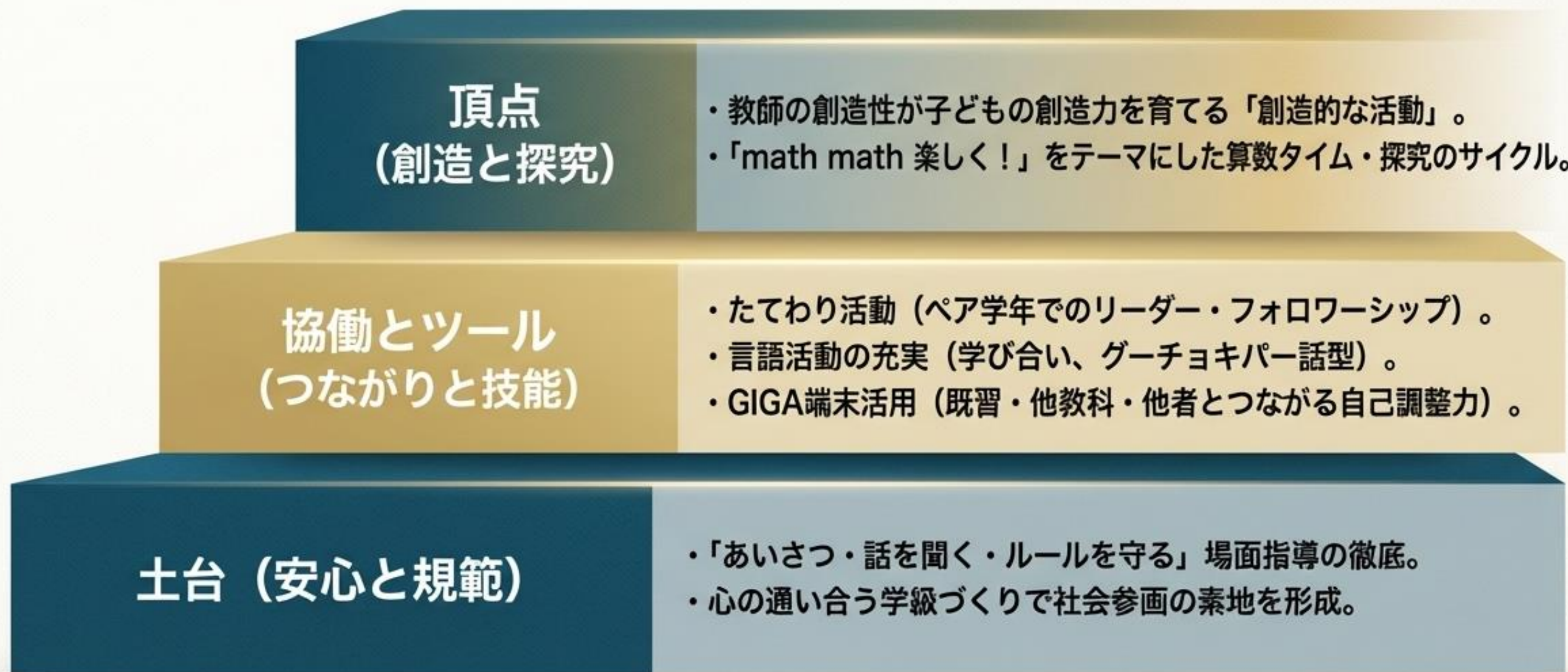


【Project 3】教員不足や複雑なニーズに対応するため、業務精選で「余白」を創出。教職員が自律・自走する主体者となる。

アライメント・ファネル：マクロなビジョンを「学校経営」へ落とし込む

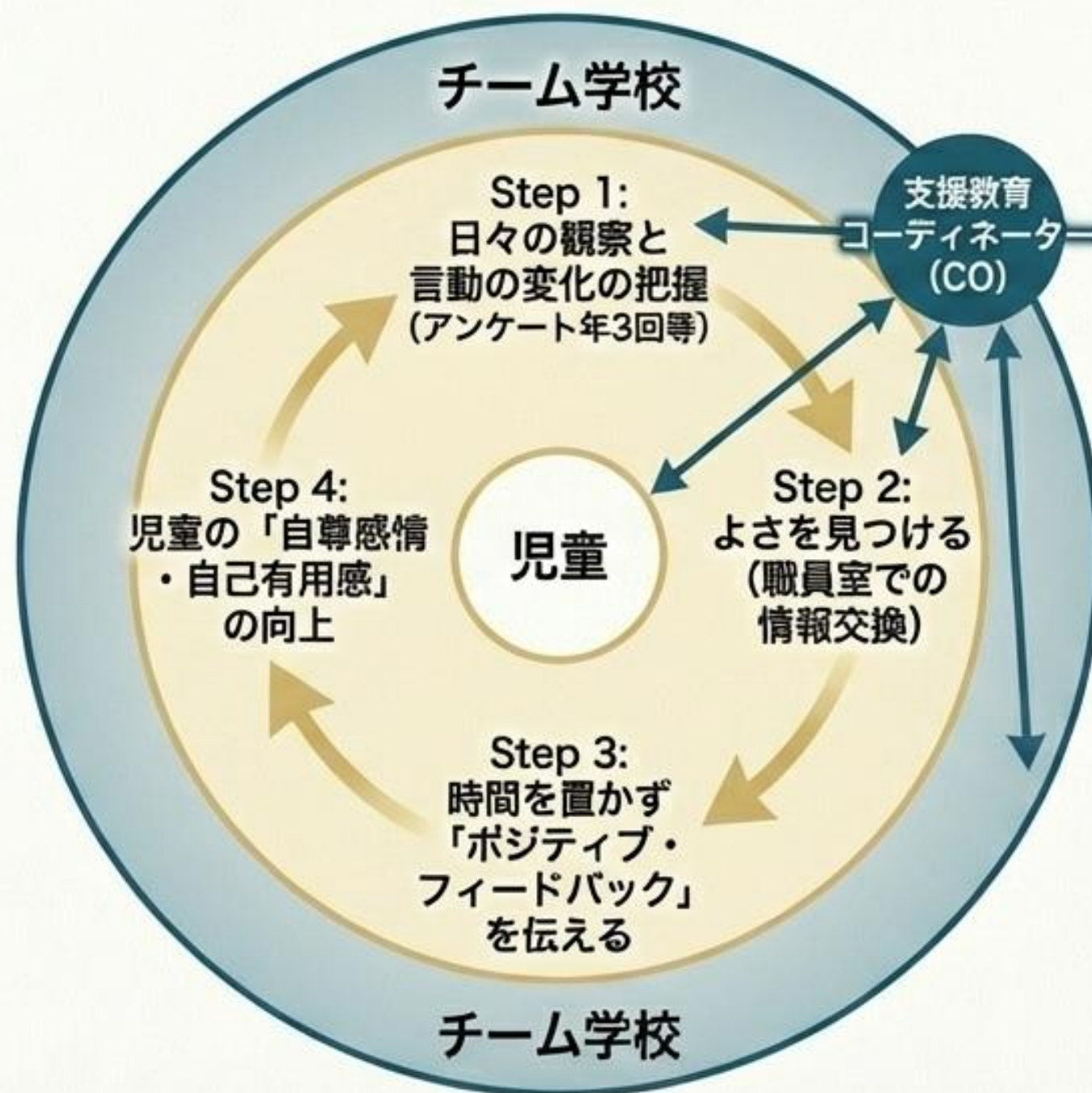


重点方針 I : 新しい社会を創り出す「能力と態度」の育成

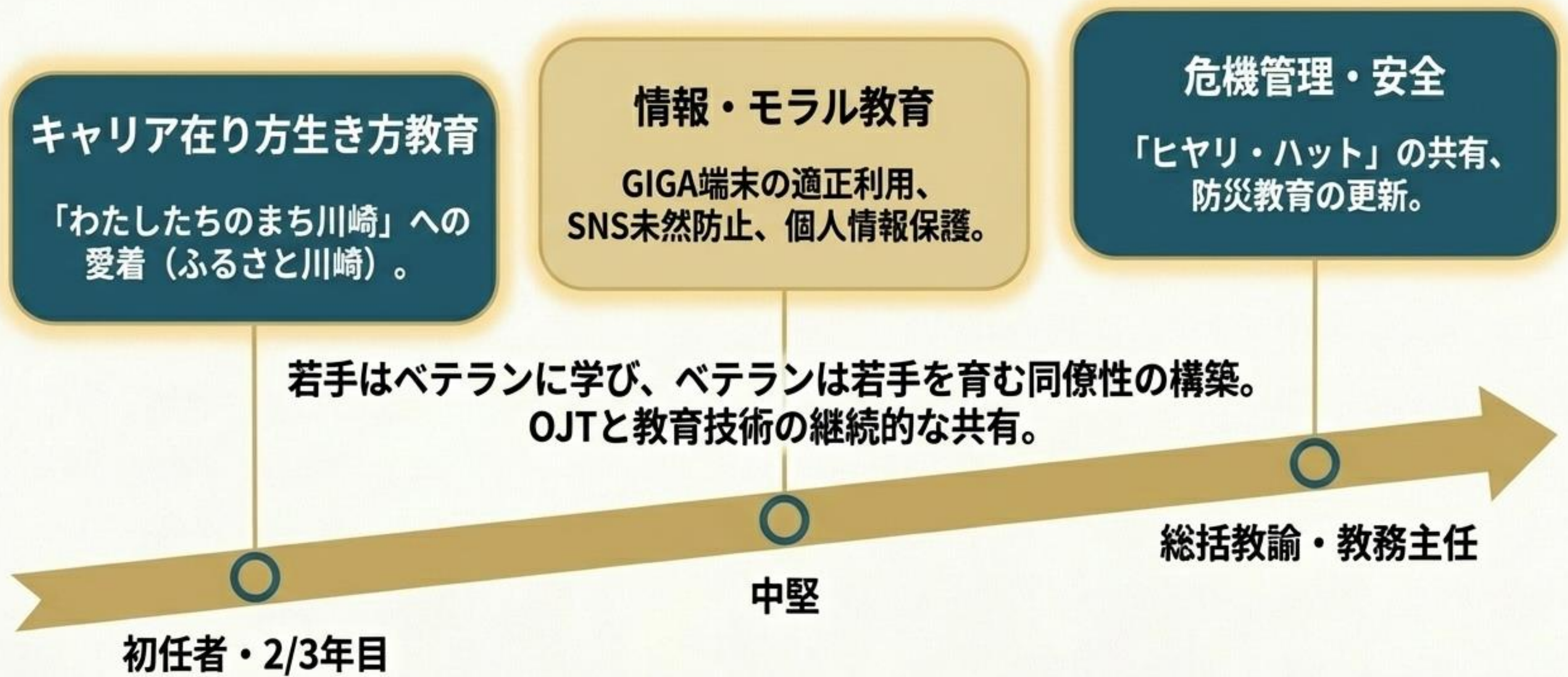


重点方針Ⅱ：全教職員で支える「児童理解と人権尊重」のネットワーク

支援教育コーディネーター（CO）をハブとした情報共有とケース会議。担任だけで抱え込まない体制。
受容・共感・傾聴のカウンセリングマインド。「かわさき共生＊共育プログラム」の実践。



重点方針Ⅲ-A：現代諸課題への対応と「チーム学校」としての専門性向上

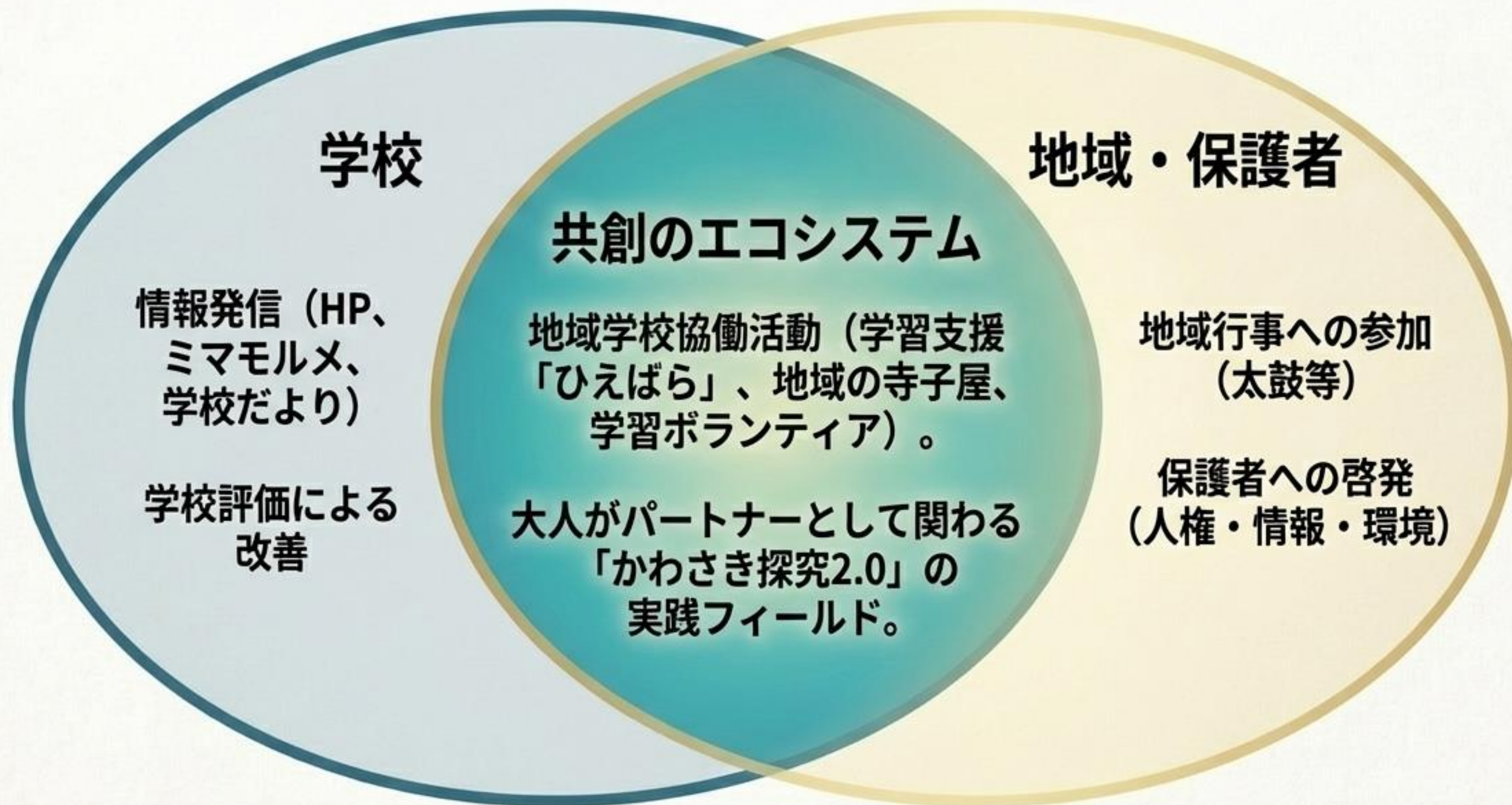


重点方針Ⅲ-B：教育の質を高める「創造的な余白」の好循環



「働きやすさ」は単なる労働環境の改善ではなく、
最終的に「児童の学びの質」へと直結する最大の推進力となる。

重点方針Ⅳ：開かれた学校づくりと「地域協働」のエコシステム



12年間を見据えた「線」としての教育：幼保小・小中連携のロードマップ



サマリー：個人と社会の幸せが循環する未来へ

羅針盤（方針）：

国の「3つの柱」と市の「4つのKey Project」
が示す明確な固定性。

キャンパス（現場）：

創造的な余白とチーム学校
によって描かれる、本校の
「4つの基本方針」。

一人ひとりが自分らしく輝き、
他者と共に持続可能な地域社会を創り出す。
2026年、すべての子どもたちと教職員の
ウェルビーイング実現に向けて。